

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

第104号

平成24年4月16日発行

会報

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8

(社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内)

電話 (03) 5272-1210

FAX (03) 5272-1213

ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

この会報が皆様のお手元に届く頃には桜の便りがある頃でしょうか、昨年の震災後は桜を眺める心にも、余裕がなかったと思います。

全肢P連では、昨年、二十三年度に神奈川県横浜市で五十四回目の全国大会「神奈川大会」を開催し、約八〇〇名のご参加がありました。

本年、二十四年度は長野県に於いて、「長野大会」を開催いたします。長野では全国の皆様をお迎えするためと、主管校である長野県稲荷山養護学校では準備も進んでおります。八月一九日(日)～二二日(火)の三日間、皆様と共に特



全国肢体不自由特別支援学校
PTA連合会

会長 濱川 浩子

(東京都立墨東特別支援学校 PTA会長)

別支援教育の最新情報を共有したいと思えます。長野でお会いしましょう。

私の娘は今年の春、東京都立墨東特別支援学校の高等部三年生になります。

平成一三年に、この墨東特別支援学校へ一年生として入学し、来年は卒業です。振り返れば、長かったような早かったような気持ちです。入学当時、学校名は「養護学校」でしたが、現在は「特別支援学校」になりました。

もちろん、名称が変わっただけではなく、特殊教育から特別支援教育へと教育の充実を目指しての変換でした。私たち保護者は、昭和の時代の肢体不自由児のようすと現在の重度重複化といわれる子どもたちには、大きな相違点があり、教育に対する取り組みも変わってきていることを理解しているつもりです。

でも、変わる教育であれば、より良い教育内容、充実した学校生活であることを望みます。その結果、卒業後も豊かなライフステージを過ごせるようになれば、こんなに嬉しいことはありません。毎年、特別支援学校からたくさんの障害をもった卒業生が巣立っていきます。

全国で換算すると何百人になるのでしょうか、数字はわかりませんが、その卒業生や保護者たちのほとんどは特別支援学校があることに感謝し、ここで育ったことを嬉しく思っているのではないのでしょうか、私も親として、卒業を二十五年度に控え、そう思っています。

行政や制度を非難し、文句を言うのはたやすいことです、私たちのような特別支援学校へ通っている親たちは、行政が用意してくれるのを待っているのではなく、子どもたちに必要なもの(教育・福祉など)は何なのかを考え、周囲の方々と力を合わせて運動していきます。

だから、子どもに障害があっても、大丈夫、苦しいのは自分だけではない、支えてくれる誰かがいるから、大丈夫、大丈夫、そう念じています。

これからの特別支援学校は、学校内だけの課題に取り組みのではなく、通常の学校への支援を広げていくことが急務です。特別支援学校は支援を必要とする子どもたちを導くノウハウを持つていきます。

そうした取り組みは特別支援学校への理解にもなると思います。

【全肢P連会報 編集コラム】

今回の104号の発行で、AIMファインとのコラボが3年になりました。AIMファインとの合併号として、今年は三回の発行を予定しています。他に、当会の単独の発行は2回(総会報告と全国大会特集号)があります。

合わせますと年五回の発行になりますので、どうぞ、関心をもってご一読ください。今夏の号では「親子ふれあいキャンプ」の療育事業を報告していただきました。また、日本肢体不自由教育研究会からの夏の大会参加募集と会の紹介を掲載しております。

子育てに家事にと追われている親御さんが、自分で多様な情報を集めるのは時間と努力が必要です。今後とも多彩な紙面と専門性の高い情報を合わせて皆様のお手元に届けたいと考えております。

《事務局長 佐竹京子》

平成二十三年国庫補助事業 「親子ふれあいキャンプ療育事業」を実施して

主催 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
開催校 香川県立高松養護学校PTA

一 はじめに

平成二十三年九月一日・二日に、香川県立高松養護学校で親子ふれあいキャンプ療育事業を実施しました。このキャンプをとおして、障害のある子どもたちが、保護者（日常的に子どもとのふれあうことが少ないお父さんも含めて）や療育担当者と一緒にいろいろな活動をしたり、学びあったりしました。ここでは本紙面をお借りして、この親子ふれあいキャンプの様子について紹介します。

二 当日までの準備

四月から、時期・場所・内容等について、本校PTA会長と学校の担当者が協議を重ね、計画・準備を進めていきました。

親子で参加しやすいように最初は夏休みの平日にプールでの活動を中心に計画していましたが、父親の参加が難しいなどの意見があり、内容も見直し、募集しました。その結果、十四家族が参加を希望し、講師や看護師、指導員、ボランティアスタッフなど総勢五十三名が参加することになりました。

三 当日の活動

直前まで台風の発生で、無事に開催できるか気をもみましたが、当日は天候も回復し予定通り行うことができました。

一日目は、午後からの活動でした。かがわ総合リハビリテーションセンター（以下、リハビリセンター）で、開会式を行いました。PTA会長や本校校長から「お父さんと一緒にいろいろな活動することは有意義なことです。実りあるキャンプにして下さい。」というあいさつがありました。



開会式 PTA会長のあいさつ

研修Ⅰは、理学療法士の泊博一氏を講師に迎え、「子どもたちのかかわりの中で」というテーマの下、日頃ふれあう時間が少ないお父さん方を中心に肩肘張らない座談会という形式で行いました。



研修Ⅰ 泊博一氏を囲んで「子どもたちのかかわりの中で」

作業所で訓練を定期的に行うなど、ますます活躍されています。この研修では、いろいろな子どもたちとの訓練で日頃から感じていることを、分かりやすく伝えていただきました。お父さんたちから子どもたちの身体のことや、今困っていることなどについて質問が出るなど、和気あいあいとした雰囲気の中で進めることができました。

毎日面倒を主にみている母親と違い、父親という立場は感じていても手出しができないなど、もどかしいものかもしれません。だからこそでしょうか。講師の泊氏の話を熱心に聞き、それぞれの立場で意見を交換していました。参加者からは、母親抜きでの交流は本音が言える利点もあり、今後、もてれば良いと感じましたという感想をいただきました。

研修Ⅱは「障がい児と共に歩む人形劇団すまいる」による人形劇とふれあい音楽体験でした。「すまいる」は、高松養護学校の保護者が中心メンバーとなり、学校や福祉施設でボランティア活動をしています。本校では、「スマイルさんのお話し会」で「三匹の子ぶた」などの人形劇や、ブラックライトシアター、またピアノやクラリネットなどの演奏を交えた楽しい催しを行い、児童生徒を楽しませてくれています。

泊氏は、本校の前小学部主事であり、長年肢体不自由教育に関わってきた方です。現在は、フリーな立場で、福祉施設や

今回は、ステージいっぱいを使ったブラックライトシアターをしていただきました。部屋が真っ暗になると、最初は不安と期待の表情だった子どもたちも、暗い

海の中に浮かび上がるきれいな魚やタコなどの海の生物や模様を、皆ただうつとりと眺めていました。手袋を使っての面白い動きに目を見張ったり、幻想的な雰囲気を楽しむと、リラクセスした素敵な時間を過ごすことができました。

最後は「ミッキーマウスマーチ」の曲で、スタッフがダンスパフォーマンスをしました。子どもも大人も楽しみながら体を動かし元気いっぱいになりました。



研修Ⅱ すまいるのみなさんとふれあい音楽体験

研修が終わるころには、初日のお楽しみ、バーベキュー大会の準備ができていました。会場はリハビリセンターに隣接している本校のピロティです。お母さんやボランティアスタッフが中心になって材料を切ったり、おにぎりを作ったりなどの準備を、研修と同時進行でしてくれていま

た。「焼けたよ」の声でおいしそうな肉や野菜を思い思いに取り、食べやすい形状に調理しておなかいっぱい食べました。家族となかなか屋外で食べる経験がない子どもたちなので、たくさん的人数でわいわい楽しく食べる雰囲気、どの子どももうれしそうでした。指導員や講師の先生、看護師さんも一緒に参加し、バーベキューの間もいろいろな話に花が咲きました。

一日目最後の活動は、学校の運動場の花火大会です。二メートルほどの吹き上げ花火や豪華な打ち上げ花火には、音に少し驚いたり、迫力に歓声を上げて喜んだりする姿が見られました。最後の手持ち花火は、自分で持ったり炎の様子に見入ったりと一人一人違った楽しみ方を見ました。花火が終わった頃にはあたりはもう真っ暗でした。宿泊しない家族は解散し、宿泊する家族は指導員やボランティアスタッフと一緒に、全日空ホテルクレメント高松に移動して、入浴したり休憩したりしました。子どもたちが寝静まった頃、お父さんと男性スタッフ、お母さんと女性スタッフがそれぞれ集まり、日頃感じていることや、悩みなどを話し、ストレス発散にもなりました。

二日目はホテルのおいしい朝食から始まり、スタッフと協力して、身支度を整えた後、玄関に集合して記念写真を撮りました。宿舎の全日空ホテルクレメント高松は高松市の玄関口でもある高松駅に隣接するサンポート高松にあります。目の前には穏やかな瀬戸内海が広がり、バリアフリーの商業



バーベキューをしながら親睦を深める参加者

施設や、赤灯台までの散歩コースが整備されているなど散策にはもってこいの場所です。ホテルからゆつくりと散策をしながら、活動場所であるシンボルタワーの四・五階にある

e・とびあ・かがわ(情報通信交流館)に向かいました。ここは子どもから大人までが自由に活用できる参加体験型施設です。最先端の情報通信技術を活かした機器を、遊ぶような感覚で体験することができます。子どもだけでなく、親たちも、「タッチメニューシック」や「二足歩行ロボット」など面白い展示物に触ったり、動かしたりして楽しみました。また、カメラを使ってコマ撮り

をし、オリジナルのアニメーション作りに挑戦する親子もいました。なかでもみんなのお気に入りだったのは、カメラの前に立つとお相撲さんになった顔や将来の顔が映し出される顔合成ロボットでした。プリクラの

ように印刷して、変身した姿に大はしゃぎして喜んでいました。



e・とびあ・かがわでIT体験

楽しい時間はあっという間に流れ、いよいよ閉会式の時間となりました。体調を崩す者もなく、無事に全行程を終ることができ、楽しいキャンプにすることができました。

四 おわりに

いろいろな活動や体験を通して子どもたちの生活に触れ、身体のことなどを学ぶよい機会になりました。このキャンプを実施することができたことを感謝するとともに、お母さんだけでなく、お父さんも巻き込んだ活動を、そしてお父さんたちが活躍できる行事を今後も企画していきたいと思えます。

特定非営利活動法人日本肢体不自由教育研究会の活動

日本肢体不自由教育研究会は、昭和

四十四年に、肢体不自由養護学校の教員有志の呼びかけによって、任意団体として設立されて以来、社会福祉法人日本肢体不自由児協会の援助と協力の下に活動を続けてまいりましたが、平成十四年に、NPO法人に組織替えを行って、肢体不自由教育関係者が主体的に運営するようになりました。

本会は、主として肢体不自由児の教育と福祉に関心のある者を会員として、その研究を深めるとともに、この分野の発展を目指して活動を展開しています。本年の主な活動を紹介いたします。

第三十六回 日本肢体不自由教育研究大会

● 期日／

平成二十四年八月九日(木)～十日(金)

● 会場／

国立オリンピック記念青少年総合センター

● 参加費／

一、二、〇〇〇円〔八月九日(木)〕

〔八月九日(木)〕

*特別講演

「大震災から学ぶ特別支援学校の課題」

講師 渡邊 世子

(前福島県立郡山養護学校校長)

*セミナー

・ A1 コミュニケーション指導の理論と実践

「肢体不自由児のコミュニケーション支援」

講師 知念 洋美

(千葉県千葉リハビリテーションセンター)

言語聴覚士)

「特別支援学校(肢体不自由)におけるコミュニケーション支援の実際―専門家連携による試み―」

講師 東 敦子

(のぞみ発達クリニック所長 臨床発達心理士)

・ A2 医療的配慮が必要な子供の健康づくり

「障害の重い子供の健康を守るため」

講師 小沢 浩

(島田療育センターはちおうじ所長)

・ A3 授業を豊かにする教材・教具の活用

「自助具製作について」

講師 横川 匡昭

(かながわ自助具工房)

・ A4 小学部からのキャリア教育

「キャリア教育の実践と推進上の課題」

講師 菊地 一文

(国立特別支援教育総合研究所主任研究員)

〔八月十日(金)〕

*セミナー

・ B1 見ることへの配慮が必要な子供の指導

「肢体不自由児の視覚を通じた環境の把握とコミュニケーション ―見ることへの配慮が必要な子供の指導と支援―」

講師 齊藤 由美子

(国立特別支援教育総合研究所主任研究員)

・ B2 障害の重い子供の摂食指導

「障害の重い子供の摂食指導」

講師 芳賀 定

(芳賀デンタルクリニック院長)

・ B3 動作法の理論と実技

「動作法の理論と展開」

講師 宮崎 昭

(山形大学地域教育文化学部教授)

「自立活動の指導に活かす動作法」

講師 渡邊 涼

(東京都立北特別支援学校主任教諭)

・ B4 読み書きの指導

「肢体不自由児に対する文字の指導」

講師 川間 健之介

(筑波大学附属桐が丘特別支援学校校長)

〔平成二十四年度会員募集〕

会員には、機関誌「肢体不自由教育」(年五回刊)を優先的に配付します。年
度会費四、〇〇〇円

二十四年度は、「特別支援教育」への
変革に即応するためのテーマとして、
次のように計画されています。

*第二〇五号(二十四年五月発行)

「キャリア教育の視点を生かした
授業づくり」

*第二〇六号(二十四年七月発行)

「各教科の授業の質を高める」

*第二〇七号(二十四年十二月発行)

「見ることや聞くことに困難のある
子供の指導」

*第二〇八号(二十五年一月発行)

「通常の学校における
肢体不自由教育の展開」

*第二〇九号(二十五年三月発行)

「肢体不自由教育に求められる
他職種との協働」

《問い合わせ先》

日本肢体不自由教育研究会事務局

〒一七三―〇〇三七

東京都板橋区小茂根一―一七

電話 〇三―三五三―二四五三

電話 〇三―三五三―二四五三

電話 〇三―三五三―二四五三

電話 〇三―三五三―二四五三

電話 〇三―三五三―二四五三

電話 〇三―三五三―二四五三

